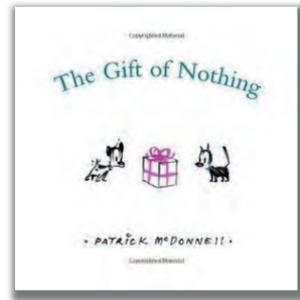


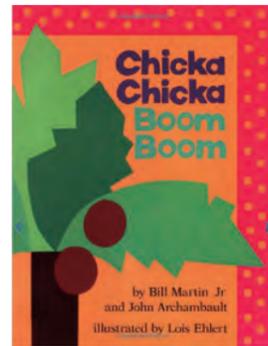
## 今月のオススメ図書

図書コーナーにあります。ぜひ読んでみてください。  
Recommended books of this month. They are in the library.



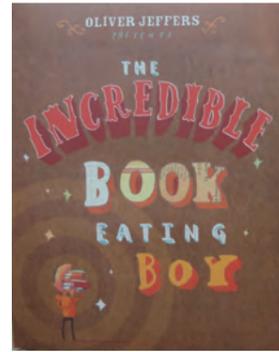
### The Gift of Nothing

黒猫ムーチが親友へのおくりものとして思いついたもの。それは、「ナンニモナイ」というプレゼント。  
心がほっとあたたまるかわいらしいお話です。  
身の回りにはモノがあふれているけれど、大切な人にモノ以外のプレゼントをしたら、あなたなら何を贈る？



### Chicka Chicka Boom Boom

授業の中でも紹介した本。意思を持ったアルファベットたちがみんなそろってココナツの木に登ろうとしたら・・・何が起ったでしょう。  
リズムカルな文章によって動くアルファベットの文字。読みやすく、カラフルで楽しい絵本です。



### The Incredible Book Eating Boy

何と、本を食べてしまう男の子。本を食べるたびにものしりになっていきました。  
ところが、本を食べ過ぎて体をこわしてしまいます。もう本を食べはけないと言われて、男の子はすっかり力を落としてしまいます。  
ある時、本を食べる代わりに読むことを思いつきました。  
イラスト、レイアウトが洗練されていて、とてもおしゃやかな本です。視覚的にも楽しめます。



## 江別インターナショナルスクール 開校1ヶ月

9月に校舎が完成した江別インターナショナルスクール。10月10日(月)に行われた生徒と父兄の入学合同説明会には、生徒、父兄関係者あわせて100名あまりが施設内のホールに集まりました。

同月17日(月)より30名の生徒と共に、レッスンをスタート。生徒にはパスポート型の出席カードが配布されました。2週間にわたる第一回目の父兄参観ウィークを終え、現在32人の生徒といよいよ本格的に授業に入っています。「楽しくのびのびと英語を覚えてもらえるよう、がんばります」とスタッフ一同は意欲を燃やしています。

## ハロウィーンの午後に現れた可愛いマスクの怪物たち

Pretty, masked monsters appeared on Halloween afternoon

先月10月29日(土)、開校後初めてのイベント、ハロウィーンパーティが行われました。

1時30分からの映画鑑賞会では、「Nightmare Before Christmas」(次頁にて紹介)が上映され、2D、3D同時スタートとなりました。子どもたちにはポップコーンとジュースで映画館の気分を味わってもらいました。

ハロウィーンの恒例行事のひとつ、Trick or Treat (トリック・オア・トリート)も行い、こどもたちは「Trick or treat・・・」と言いながら各部屋を訪れ、お菓子をもらって回りました。

マスク発表会では、子供たちが授業

色とりどりの個性あふれる生徒たちの手づくりマスク



の中で作った仮面をステージの上で披露。牛乳パックや身近にある素材と絵の具を使ってつくったマスクは、どれも個性あふれる素晴らしい出来でした。ステージでは、それぞれが自分の名前とマスクを英語で紹介。リハーサルもほとんどできない中、みんなしっかり言えていたので、スタッフは大喜び。  
最後は、マジシャン坂本一魔さん、暁奈さんに華を添えていただきました。子供たちとの対話型のマジックに会場も湧き、さらにお二人から花や動物の形に細工された風船のプレゼントも。  
かぼちゃのおばけやコウモリ、スタッフ扮する魔女や妖精、27人のマスク

の怪物たち、ちょっと奇妙なハロウィーンのお菓子・・・などなど、ハロウィーン色のスクールの一日でした。

生徒のみなさん、お忙しい中お越しくださりました父兄の皆様、おつかれさまでした。また、ハロウィーンの飾りや小物を作ってきてくださった方々、当日お手伝いに来てくださった方々に心より感謝を申し上げます。

残念ながら今回パーティに参加できなかった生徒さんのすてきなマスクもみんなのマスクと一緒に、パーティー後1週間スクール内に展示されました。  
11月2日 記

## 編集後記

月1回発行予定の「EIS コミュニケーション」第一号です。本誌ではスクールの活動報告やニュース、英語の学習に役立つ情報や関連情報、スタッフからのメッセージなどを載せていきたいと思えます。みなさまからも情報やメッセージ等がございましたら、ぜひお申し出ください。

そろそろスタッフ同士もお互いの性格や個性もわかってきたところです。「三人寄れば文殊の知恵」というのですから、個性も才能(?)も豊かなスタッフがそろえば良いものができるはずと、希望的観測を抱いている私なのです。

(11月9日)

### 「英語入門のためのサプリメント講座」 ～この文字は、どんな音を出すの?～

先日、生徒のみなさんがどのくらい英語になじんでいるのかを知るために簡単なテストをさせて頂いたところ、思った以上にもの名前を英語で言えることが分かりました。ただ、書く・読むとなると、苦手な子供たちが多いようです。ローマ字で書いても英語のつづりが分からない。それは、単になじみがないからなのです。最初に予備知識を少し頭に入れておくだけでも違ってきます。

そこで、文字と発音の関係になじんでもらうため、レッスンのない時間、フリータイムを使ってサプリメント講座を設けることにしました(11月限定)。ひとつパターンを覚えると、何十もの単語が読めたり書けたりするようになるという「お得」なところもあります。

図書コーナーや設備を利用するように、気楽な気持ちで受けられるプログラムです。今後、このような講座・レクリエーション・クラフトのようなフリータイムプログラムを時期ごとに取り入れていく予定です。

### ■今月のひとくち英会話 ～ちょっとした心くばり編～

カタカナの読みは、あくまでも参考にしてくださいね。  
きちんとした発音は、スクールに来たときに先生やスタッフに聞きましょう。

**Excuse me.** /イクスキューズ・ミー (すみません)  
人に声をかける時、人の前を通る時など色々な場面使います。

**After you.** /アフター・ユー (お先にどうぞ)  
だれかにゆずる時の心くばりのひとこと。

**May I help you?** /メイ・アイ・ヘルプ・ユー (何かご用ですか)  
お店などで「いらっしゃいませ」という意味にも使われます。「なにか私にできることはありませんか?」という思いやりのこもったひとこと。  
困っている人、おともだちがいたら、声をかけてあげて。

## 今月のおたんじょう日 Birthdays this month

11/7 Mizuki 11/21 Tomomi  
11/12 Maori 11/24 Nanami.N

## ハロウィン映画鑑賞会 「The Nightmare Before Christmas」 (ナイトメア・ビフォア・ クリスマス) のご紹介



ファンタジーにちょっと怖いホラーの要素が加わり、個性的なキャラクター達がこの映画の魅力となっています。

この映画は、伝統的ストップモーション・アニメーション技法（静止している物体をひとコマごとに少しずつ動かしてカメラで写し、連続して動いているかのように見せる映画の撮影技法。膨大な数の写真と手間のかかる方法です）、最新のデジタル映像技法を取り入れて制作されました。

あらすじ：『ハロウィン・タウン』の住人たちは、怖いことや人を驚かせることが大好き。ハロウィン当日は大盛り上がり。でも、パンプキン・キング、ジャック・スケリントンは、同じことの繰り返しに飽き飽きしていました。

そんな時、ジャックは森の奥で不思議な扉の付いた木を見つけます。その一つを開いてみると、ハロウィン・タウンとは全く違う、陽気で明るい『クリスマス・タウン』の別世界が広がっていました。初めて見る美しい雪景色と、色鮮やかな電飾で飾られた街の風景にすっかり心を奪われてしまったジャックは、自分達でクリスマスを作り出そうと計画します。

ところが、そう簡単には行かず・・・

## "6 Months in Japan (so far!) 日本で半年間を過ごして思うこと

### ナタリー・ジェイコブセン

My first six months here in beautiful Hokkaido have gone by far faster than I suspected they would. I think that's a sign that I have enjoyed my time here!

I'll admit that I was hesitant and a little apprehensive - taken off guard and a tad shy when I arrived - mostly because I knew very little Japanese, had never been to Hokkaido before, and knew almost nobody here.

I remember my first day clearly: I woke up at 3:30 am precisely (thanks to the jet lag), and went for a stroll during sunrise in the park. It was the most peaceful walk, in the most quaint city, and the sun and sky were beautiful, and I knew that I would be happy here. I definitely have been!

Not only is Hokkaido one of the most beautiful places I've visited, it's also one of the most peaceful. It seems separated from the industrious Honshu, yet still has the same motivation and unison of the rest of Japan. I sense a great sense of pride and motivation, with internal strength here in Japan and in the hearts of Japanese people.

There is a great strive to do everything well, to work hard with and for each other. To feel it and to see everyone doing it peacefully and enthusiastically makes me both happy and hopeful. I see strong character and potential in each of the students here at EIS, and I hope to harness their strengths and give them a chance to really explore their creative side.

Everywhere I go I witness the odd phenomenon of traditional Japan integrating with the modernizing of the world. I hope that the students here take with them the essential foundations and traditions of Japan, and carry it with them when they travel. Learning English does not mean abandoning their culture and Westernizing, but rather, using it to convey and educate others from around the world about the greater depth of Japan.

I was never much into Anime, nor so much Harajuku fashion, but I must admit those are the two things most foreigners think of - besides "Western sushi". I learned teriyaki chicken is most definitely a Western creation, and is a rare thing on a Japanese menu. I have learned a great

deal amount of ways to respect others, and just how quickly it can be shattered.

The history and culture are understood within Japan, but have little to no recognition outside of Japan. My hope is that these students will learn to effectively communicate with the rest of the world, and share with everyone else, the inner beauty and strength that weaves together the true heart of Japan.

美しい北海道での6ヶ月間は、思いがけないほど早く過ぎていきました。それは、私がここでの生活を楽しんでいたということでしょう。

正直、来て間もない頃は戸惑いもありました。特に北海道に来たのははじめてで、知り合いもほとんどいなかったからです。

最初の日、夜中の3時半に目覚め、散歩に行った公園から朝日を見たのを覚えています（時差ボケのおかげ）。それはとても穏やかな朝の散歩でした。太陽も空も美しく、ここでの楽しい生活を予感しました。

北海道は私が訪れた中で最も美しく平和な場所の一つですが、本州のような喧騒から離れていながらも同じ日本としての熱意や誇り、内面の強さを感じ取ることができます。

今は、何をすることも大変な努力が要りますが、みんなが平和に熱意をもって仕事をしているのを見ると喜びと希望が湧いてきます。EISの生徒たちには個性や可能性を感じ、創造力を伸ばす機会を与えてあげたいと思っています。

私は行く先々で日本の伝統が現代化する世界の中に埋もれてしまっているのを目にします。私は、ここの生徒たちが旅をする時には、日本の大事な礎と伝統を携えて行ってくれることを願っています。英語を学ぶことは、自国の文化を捨てることでも西洋化することでもなく、むしろ、日本をより深く世界に伝えるために必要なのです。

私自身は特にアニメや原宿ファッションに興味を持ってはいませんが、この二つは多くの外国人観光客が日本のイメージとして持っています。“（私達が自分の国でみる）西洋寿司”や“照り焼きチキン”が日本を代表する料理ということも私たちの思い込みだと知りました。

日本の歴史と文化は、まだ日本の外ではなかなか知られていません。私は、このスクールの生徒たちが他の国とうまくコミュニケーションを取れるようになって、日本の“心”をつくり上げている内面の美しさや強さを世界に伝えていってくれることを期待しています。

訳 CA

### ナタリー・ジェイコブセン Natalie Jacobsen

専任講師

米国ポートランド出身。オレゴン州立大学卒業。趣味は映画作成など。強みは、リーディングとライティング。お手本のような純粋なアメリカ英語を話します。



「物語や詩を書くのが好きで、本を書いたこともあります。今は、子供たちに英語を教えることに意欲を燃やしています。

子供たちには、外国人とコミュニケーションをとるのに十分なところまで英語力をつけてもらえるように指導したいと思います。私は今までにも旅をしましたが、子供たちにもぜひ自信と好奇心を持って旅をしてみしてほしいです。そのため勉強と探検はもう始まっています！がんばって！」

（若いけれどしっかりしています。おしゃれで快活。ジブリの映画が好きで、トトロのグッズもたくさん持っています。 - スタッフ談）

### カロリーナ・ブランコ Carolina Blanco

専任講師

コロンビア出身。コロンビア国立大学卒業。北大にて社会環境工学の学位、博士号取得。日本に来て8年。一児の母。趣味はダンスと音楽、白黒写真を撮ること。



「こんにちは。10年以上子供たちに英語を教えています。子どもたちが力をのばしていくのを見るのが大好き。どうしたら子供たちが心地よく勉強できるのかをいつも考えています。

耳を鍛えることによって語彙も増え、学習のスピードアップにつながるので、授業では音（発音）を聞き分けることに力を入れたいと思います。

まだ短い期間ですが、EISの子どもたちには大きな可能性と挑戦する力を感じます。バイリンガルの子どもたちを育てる意欲が湧いてきます。」

（明るく気さくな性格。ちょっとした材料があると何でも作ってしまいます。 - スタッフ）

### 高嶋 晶子 Akiko Takashima

アシスタント講師

大阪生まれ、千歳市育ち。高校卒業後カナダに6年間留学。留学中は、地元の小学校で児童教育を学ぶ。



流暢な英語を話します。個人でも子どもに英語を教えています。

スクールでは、外国人講師に付いて授業をサポートしたり、マジックや折り紙などの特別講座で通訳します。

「こんにちは、Akikoです。英語と旅行と農業が好きです。朝の4時からとうきびの収穫をすることもあります。

私が小学生の頃は、おはじきがはやっていて、休み時間によく遊んでいました。みなさんは何をして遊んでいますか？みなさんの好きなことをぜひ教えてください。」

（明るく人懐っこい性格。人にも動物にも虫にも優しい。さっぱりとした性格で意外と体育会系。 - スタッフ）

## スタッフ紹介 Introduction of staff

### デリヌル・アニワル Delnur Anwar

非常勤講師

中国出身。現在、北大医学部で研修中。流暢な英語を話します。ただ今、日本語の勉強もしています。



スクールでは、講師として、アシスタントとして活動。体のしくみ等も教えます。

「こんにちは、江別インターナショナルへようこそ！「デリ」と呼んでください。新疆ウイグル自治区出身です。知らない人も多いと思いますが、ウイグルのこと、ウイグルの文化や踊り、そして世界中の国々のことを紹介していきたいと思っています。さらに楽しい英語のレッスンを期待してください。」

（日本人に近い感覚を持っています。穏やかで話しやすい雰囲気。落ち着いています。結構若いんです。 - スタッフ談）

### 金村 真弓 Mayumi Kanamura

生まれも育ちも北海道のどさんこ。学生時代の専攻は、日本文学。趣味は映画鑑賞、登山、クロスカントリー、旅行（今までにヨーロッパ、アメリカ、インド、スリランカ、ニュージーランドなどを旅行）



英語は、北海道で習得。現在、元大学教授でナチュラルリストのイギリス人、Dr. マーク・ブラジル氏と二人暮らし。

2008年よりフィクサーとしての仕事（海外より来日する方々の目的を達するためのアシストをする仕事）を開始。09年より、外国船で来日する外国人客へ日本文化を紹介する講師として活動しています。

（理路整然ともの考える頼りがいのある存在。知的な面持ちの裏におちゃめな一面も。 - スタッフ）

### 安念 千佳子 Chikako Annen

江別市出身（第二小・中学校に通ってました）。米、ルイス・アンド・クラーク大学コミュニケーション学科卒業（人間関係、メディア論等）。医療情報、広報等の仕事を経て現在 DTP（パソコンでパンフレット・カード等の作成）を手がけています。スクールでは、マルチにお手伝いします。想像力と創造力を凝らして、みんなと一緒にわくわくするようなものをつくっていき



たいです。好きなもの（こと）：音楽、アート、スポーツ、お笑い、ものづくり、本、鳥（2羽飼っています）、自転車の旅（最長914km）、人、書、空気のきれいな場所、炊きたてご飯と梅干し

苦手なもの（こと）：お酒、水泳（水の中で目をあけられません）

特別講師のご紹介は次号にて